

19. 自分で出来るっていいね ～排泄における自立支援～

介護老人保健施設 みあ・かーさ
介護福祉士 中原千紗(なかはら ちさ)
共同発表者 橋本美樹

【はじめに】

利用者への支援において、意思を尊重すること、できることを継続することなどが重要である。そのためには、利用者自身がその気になって動くことが大切である。

今回、転倒予防を重要視しすぎ、自立支援を妨げている現状に疑問を持った。排泄動作について本人の意欲向上への関わりや、尿取りパットを変更するなどし、自立に向けて取り組み、良い結果を得たのでここに報告する。

【事例】

57歳の女性（以下A氏）で、要介護度4、統合失調症の既往がある。性格は明るく話し好きであるが、生活に対する不安は強く訴えられる。ADLは車椅子自乗または、付き添いで歩行器歩行をしている。排泄動作は、尿取りパットの装着が上手くできず、介助が必要である。指が動かしにくく、一人で排泄動作を行なう事に恐怖心があり、依存的である。

【援助の実際】

1. 貼り付け式の尿取りシートの使用を勧める。
2. リハビリスタッフと連携をし、筋力アップに努める。
3. 根気よく、意欲向上につながるような声かけを行う。

【結果】

1. 尿取りシートの使用について、変更当初は指が動かしにくく依存的であったが、根気よく声掛けをし、関わっていくことでできるようになった。
2. 転倒することなく筋力アップに伴い、歩行器歩行が確立された。
3. 「自分で出来るもん」という言葉が本人から聞かれた。

【考察】

排泄行程を観察する中で、尿取りパットの取り換えが上手くできず、その部分に介助が必要な事に気づき、貼り付け式尿取りシートの使用を奨めた。はじめは不安や恐怖心からできなかった尿取りシートの使用ができるようになったのは、根気よく声掛けをし、成功体験を重ねた事が、自信へとつながったと考えられる。¹⁾ 山上は、利用者の“できる”、“やりたい”を引き出す仕掛けの作り方について、「自ら前向きに行動することができれば達成感が得られるとともに、『やらされる』ということのストレスもなくなります。さらに、自分の意志で行動すれば、自分のタイミングで動けるので、不用意な事故が軽減することが期待できます。」と述べている。つまり、A氏から「自分で出来るもん」という言葉が聞かれたことから達成感を得られ、筋力アップもし、自分のタイミングで動くことが増えたため、転倒などを起こさなかったと考えられる。同時に、リハビリスタッフ（以下PT）へ、排泄状況を報告し、情報交換をする事で、PTによるリハビリと介護福祉士が行う日常生活リハビリを共有することができ、筋力アップにも繋がった。

【結論】

自立支援において、自己達成感や自信につながる関わりが必要である。

【引用文献】

- 1) おはよう 21 第 33 巻第 2 号(通巻 414 号)2022 年 2 月号(毎月 27 日発売)
編集・発行：中央法規出版 発行人：荘村明彦 編集人：渡辺弘之
〒110-0016 東京都台東区台東 3-29-1 P5～9